



『TOTAL-MRTOC』は、保線業務に用いている各種情報を一括管理し、煩雑になりがちな保線業務を支援するシステムとして作成しています。



稼働環境：

- O/S : Windows 2000/XP
- メモリー : 256MB以上 (512MB推奨)
- 使用ディスク容量 : 100MB程度
- ディスプレイデスクトップ領域 : 1024\*768ピクセルを標準とします。
- ネットワーク環境にも適用可能です。

TOTAL-ADAM (A Daily And Monthly report management system)

記号	作業コード	作業名	線名/線種	駅間(自)	駅間(至)	開始時間	終了時間	人員
A	10	軌道直し	☆☆線/副本線	駅名称1	0k111	0k222	AM	40
B	70	1-線部、分線部、踏切部等	☆☆線/副本線	駅名称5	11k000	23k000	AM	1.0
C	60	モーターカー、タンクローリー等	☆☆線/副本線	駅名称7	3k475	13k475	PM	20

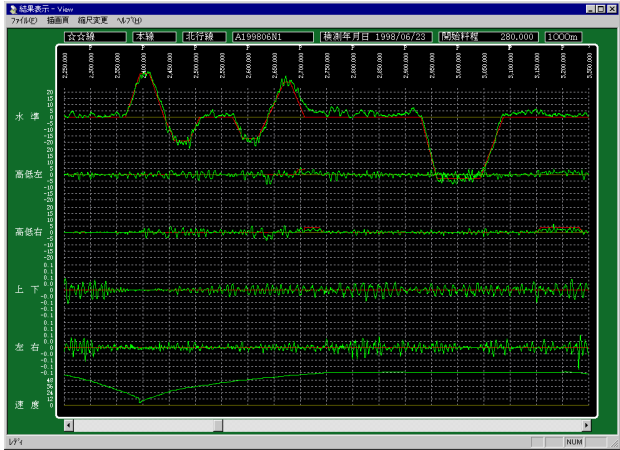
日報・月報処理システム

個人あるいは班単位において、逐次入力して行き、月、半期、年単位の集計処理を行います。操作方法は各項目のキー入力を極力なくし、プルダウン形式にて選択してゆきます。

記号	内外	工事コード	工事件名(▽)	作業コード	作業名(▽)	線名/線種	線別/番線(▽)	駅間:自/至(▽)	開始時刻
A	直			123	通床交換	☆☆線/本線	上り/	駅名称1	0k1
X	外	213	分岐器改良	304	部分交換	☆☆線/本線	上り/	駅名称5	15k0

Seq	コード	備考
1	101	列車監視員の位置は指揮者の指示に従い適正な場所につくこと。
2	102	列車監視員は指揮者と現場状況を確認の上配置につくこと。
3	103	列車監視員の合図は、指揮者または待避リーダーからの応答があるまで行うこと。
4	104	列車監視員は指揮者および待避リーダーが応答するまで合図を執行すること。
5	105	列車監視員が待避の都合は、必ず監視員向上の打ち合わせと位置の確認を行うこと。
6	106	列車待避時は互いに声を掛け合い一帯に待避すること。
7	107	指揮者、列車監視員は列車待避の進捗状況を把握すること。
8	108	作業中はあらかじめ待避場所を確認しておくこと。
9	109	早期待避と待避後の安全確認を必ず行うこと。
10	110	待避時は工具資材の置き忘れの無い事を必ず確認すること。
11	111	線路歩行は列車に近づいてはならないこと。
12	112	袖に見直し不良箇所での線路歩行は、注意すること。
13	113	線路歩行時、軌道内の立ち入りは必ず線路外で一旦停止し、指揮者待避を行うこと。
14	114	合図で列車待避は、必ず確認の上で待避すること。
15	115	列車待避時は、必ず通過列車の注視を怠らぬこと。
16	116	使用工具は、正規の工具を使用すること。
17	117	重量物の取り扱いは自分勝手な判断で行わず、相手と呼吸を合わせ上位職者の合図で行うこと。
18	118	共同作業は声を掛け合い、相手との呼吸を合わせること。
19	119	作業状態を必ず判断し、手、指、足元に十分注意すること。
20	120	放れ物、単独歩行は絶対禁止のこと。

## TOTAL-ARTJRM (A Rail Track and Jolt Recording Management system)



### 軌道&動揺検測システム

検測車等により収録された検測データを読み込み、分析処理を行い画面表示、P値、修繕基準値超過判定、経年変化図、および検測項目の検測図（チャート図）等を出力します。

#### 動揺項目帳表出力コントロール

1. 出力条件
2. 修繕基準値超過箇所一覧
3. 検測一覧
4. 任意区間最大値一覧
5. 任意区間最大値グラフ
6. 経年変化図

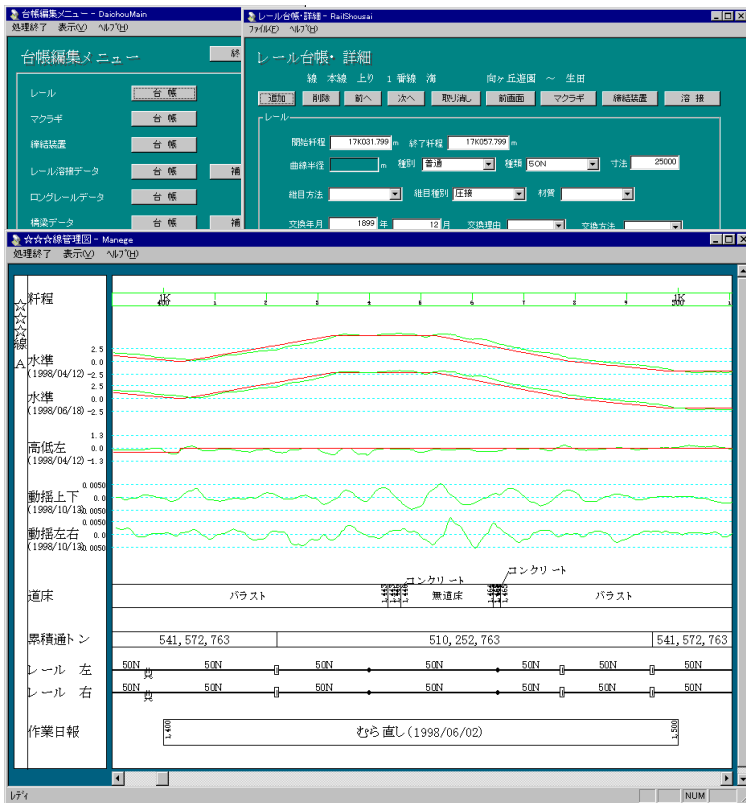
#### 軌道項目帳表出力コントロール

1. 出力条件
2. P値全線道床別一覧表
3. P値管理区間別一覧表
4. P値管理区間別棒グラフ
5. P値曲線別一覧表
6. P値駅間別一覧表
7. P値500m区間別一覧表
8. 指定区間集計P値一覧表
9. 検測一覧表
10. 軌道管理一覧表
11. 修繕基準値超過箇所一覧表
12. 継目部の高低狂い一覧表
13. 道床境落ち一覧表
14. 経年変化図

#### リアクションプレート帳表出力コントロール

1. RP修繕基準値超過箇所一覧表
2. RP全体狂い割合一覧表
3. 管理区間別RPP値グラフ
4. RP検測一覧表
0. 処理終了

## TOTAL-RASYS (Rail Administration SYSTEM)



### レール管理システム(施設台帳管理システム)

レール台帳、継目台帳、道床台帳等を入力しておき、これらを更新することによって、常に敷設されている軌道施設物の現況を把握することができます。これにより、次のレール交換時期を判定し、合理的なレール交換計画をたてることが可能です。また、登録された台帳をもとに軌道管理図をディスプレイおよびプリンターに描画しますので、現状の敷設状況を視覚的に確認することができ、軌道管理図画面の情報を指定（マウスクリック）することにより、各種台帳を表示し編集することが可能です。

その他、支援システムソフトの開発も承っております。

開発元：(株)トータル・インフォメーション・サービス  
 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-46-25 第18 荒井ビル9F  
 TEL 03-3369-1192 FAX 03-3369-1191  
 URL [www.total-inf.co.jp](http://www.total-inf.co.jp)